

VOL.
16

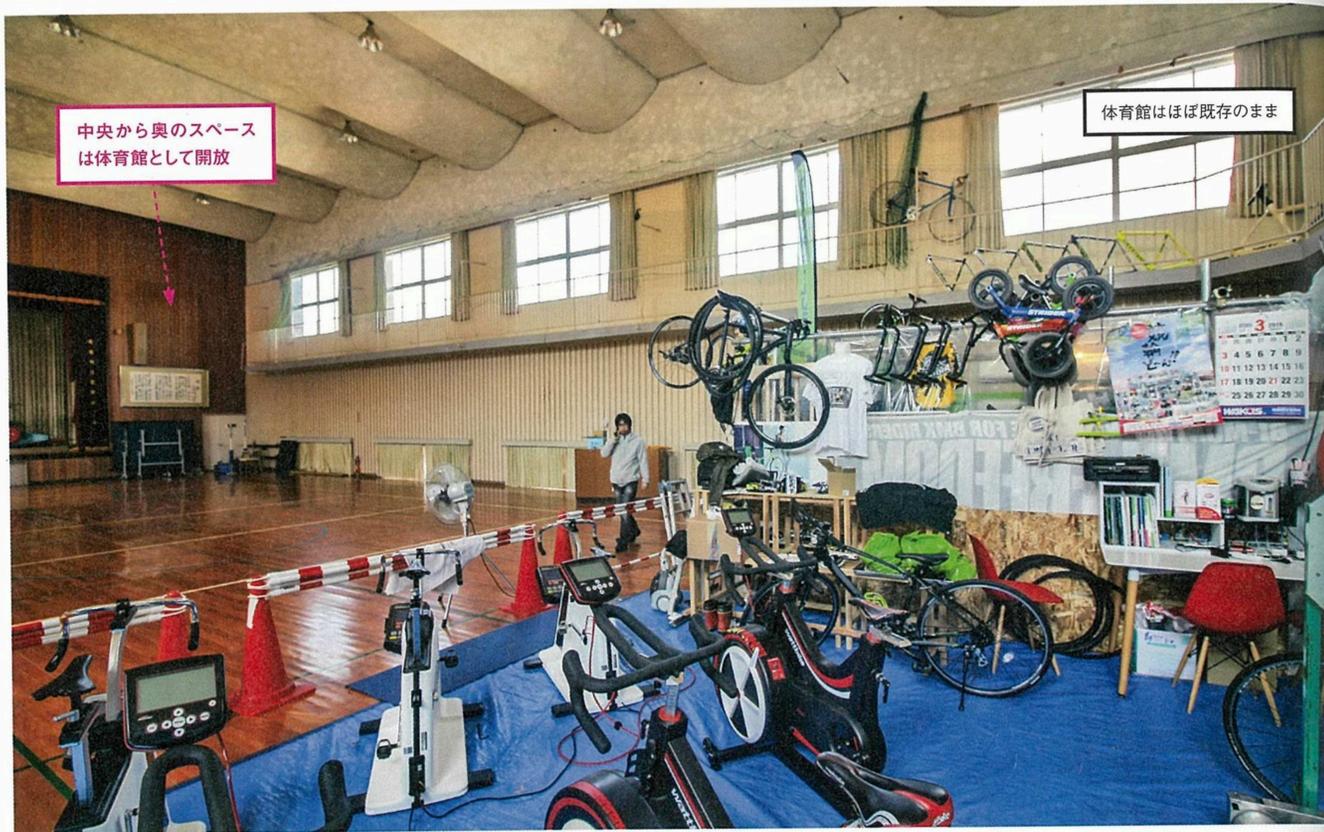
Renovation Journal

リノベーション・ジャーナル

業界動向から最新ノウハウまで

DIY×リノベ

[企画・設計] 実用テクニック



中央から奥のスペースは体育館として開放

体育館はほぼ既存のまま

スポーツサイクル専門店「鹿児島FunRide 鹿屋店」がショップを構えており、体育館の一部を使用している



要点 2 曖昧な領域は曖昧に使う

大規模施設はエントランスや階段室など曖昧な空きスペースが発生する。無理に手を加えず、広さ=価値と考え、曖昧な用途として用いる



既存の下駄箱

アウトドアチェアを並べた休憩所

写真の手前側が外部になる

旧小学校の広い出入口に設けた休憩所。自転車も置ける半外部スペースとして活用

要点 1 「既存のまま」を徹底する 新規用途を無理なくフィット 大規模施設の リノベーション術



工事費抑制に最も有効なのが既存のまま活用する領域を増やすこと。割り切りとミスマッチの面白さを表現するセンスが重要

大規模施設のリノベーションは、その規模ゆえに事業化に際しては予算などの制約が大きい。小学校をリノベーションした「ユクサおおすみ海の学校」をテキストに大規模施設における効率的なリノベーションの手法を見ていく



既存の黒板

床材も既存のまま

校長室を利用した宿泊施設の客室。黒板や既存の仕上げ材の多くを生かしている

「ユクサおおすみ海の学校」は旧菅原小学校を再生した宿泊施設と観光立寄所。設計：ブルースタジオ+プラスディー設計室



排気ダクト

厨房

壁と天井は既存に塗装

既存の洗面台

床も既存のまま

レストラン「おおすみ食堂さのぼい」の様子。大隅半島の食材にこだわっている。図工室と理科室を活用



要点 5 近過去はビンテージ、古さは味と捉える

30~40年前の一般的な建材は若い世代にとって懐古の対象。積極的に残すことで空間の特徴になる。部分的な劣化も味として捉えてくれる

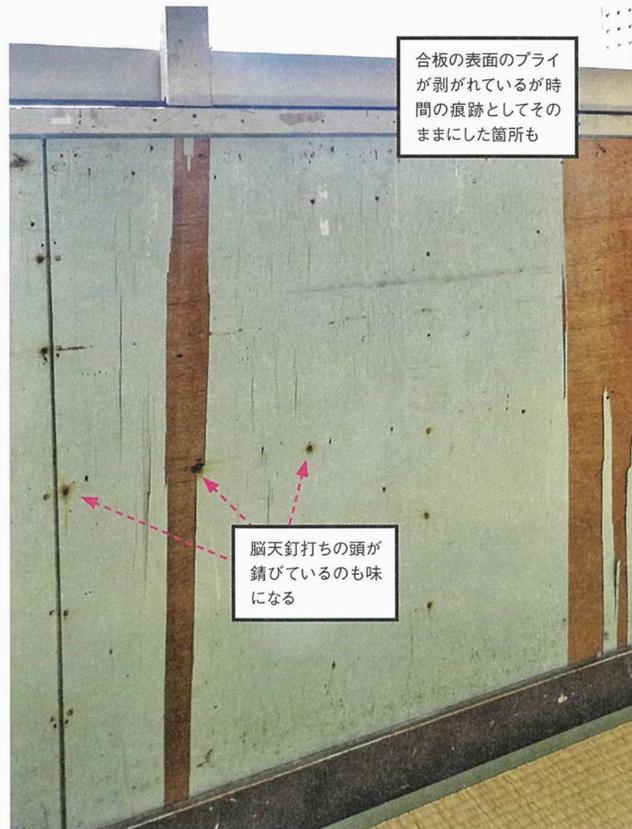
Renovation for Plan, design, the construction spot



廊下に用いられていたリノリウム



教室や教員室に用いられていた寄木風の複合フローリング



腰壁の合板は一部の表層が剥がれているがそのまま生かした



壁に用いられている吸音板



要点 3 空間刷新は仕上げではなく解体で

既存の空間の印象を変える場合は仕上げ材を交換するのではなく部分的に解体し、既存部分との関係を変えることで変化を付ける

Renovation for Plan, design, the construction spot



大隅半島由来の品々を扱うセレクトショップ「家苞(いえづと)」。既存の天井ラインより上部を撤去し、下部の壁を白く塗って変化を付けた



要点 4 屋外を充実させて室内の価値を高める

内装のやり変えと比べると、デッキなどの外構は安価にできる。室内とつながる中間領域を設けて部屋の価値を高める手法はコストがよい



レストラン「おおすみ食堂さのぼい」のテラス席。オーシャンビューの特等席。工事費はクラウドファンディングを活用



要点 7 廉価で印象的な什器で空間をつくる

印象的な什器があれば建物に手を入れずに象徴的な空間ができる。工事費が高まないようにDIY可能な材料と納まりで設計する

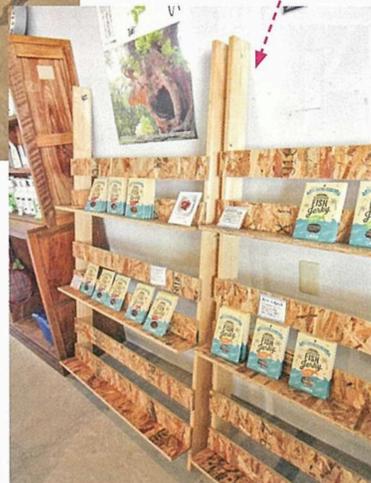


インニッサン(30×40mm)をジャングルジムのように組んでOSBの棚板を載せた什器

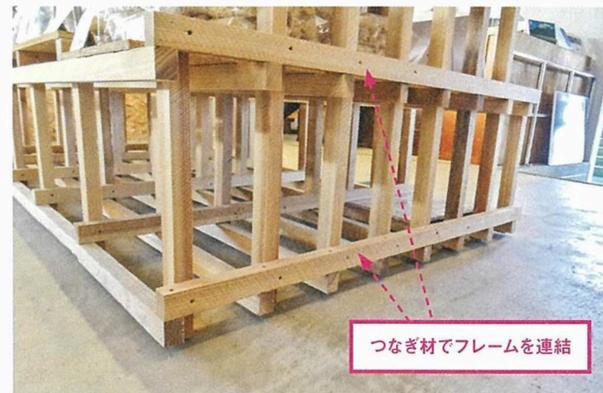


スペースの中央に印象的な什器が置かれることで、スペース固有の雰囲気生まれる

固定はしていない



OSBを棚板に用いた什器。壁に立て掛けるだけのシンプルな設置



つなぎ材でフレームを連結

四角いフレームをつなぎ材で連結して一体化している



什器の詳細。L型に組んだ棚板を支持するツーバイ材にビスで固定



要点 6 備品の家具を全面的に活用する

大規模施設には大量の備品が付きもの。木製家具などは加工しやすく転用が効くのでなるべく再利用する。安価な新品家具より個性になる



背板・側板はムク材。時代を感じさせる

学校備品の収納の扉を外して使用

受け材

棚板周辺の納まり

「家苞(いえづと)」の什器の一部は教室の収納の扉を外したものだ。背板や側板がムク材なのでさになる

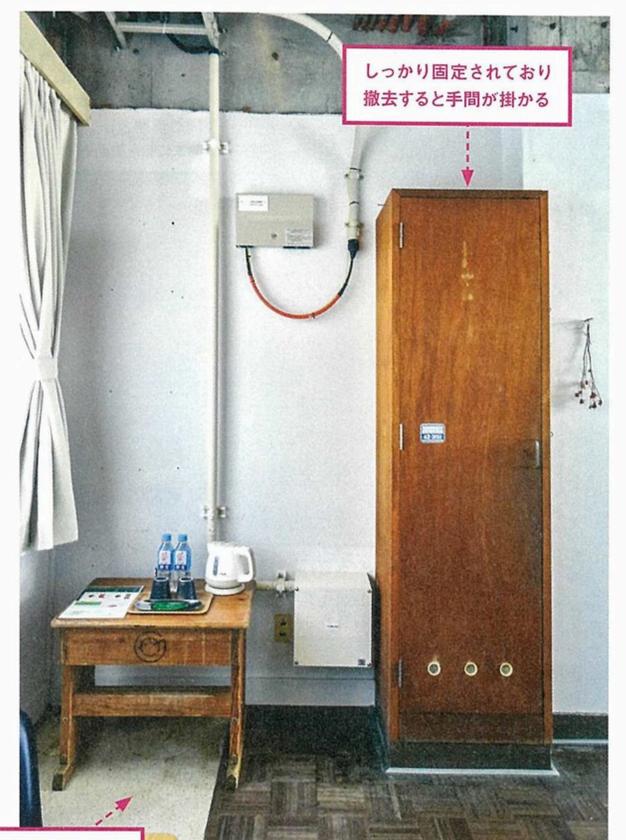


収納家具は配置も既存のままにしている

教員室などの収納を客室の備品入れとして再利用



生徒用のロッカーもそのまま備え付けている



しっかり固定されており撤去すると手間が掛かる

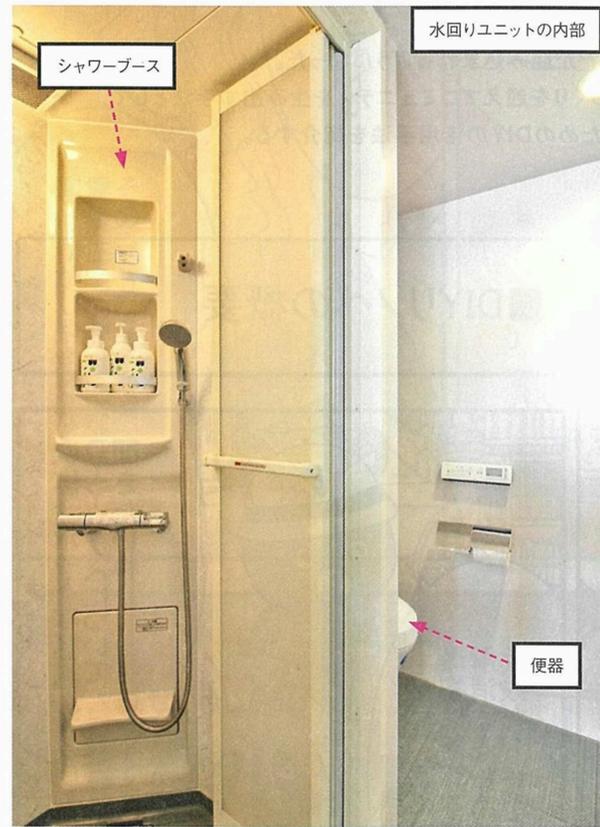
収納を撤去したときに床材も撤去

掃除用具入れを客室のロッカーとして再利用している



要点 9 水回りユニット+天井給排水

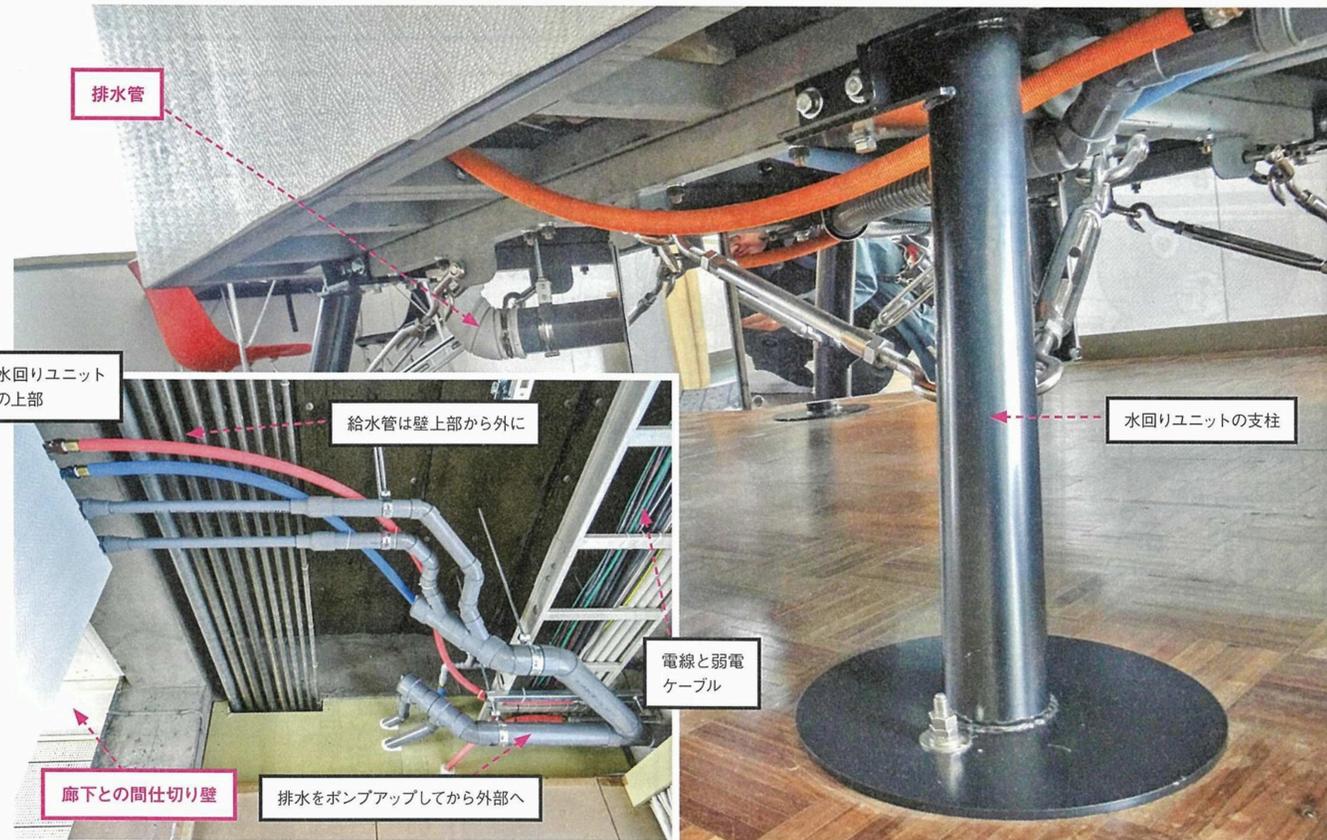
用途を変更する場合、制約を受けるのが給排水。床下ではなく天井から給排水できる装置を入れることで水回りの新設が容易になる



シャワーブースとトイレが一体となっている



個室タイプの客室には箱型の水回りユニットを設置



水回りユニットの下部。ポンプアップして壁から排水しているため床面に給排水管が立ち上がっていない。このシステムを使えば水回りの設置の自由度が高まる



要点 8 家具は建築化せずに床に置くだけに

ベッドなどの大型家具は造り付けとせずにユニット化して置くだけに。このことで床・壁・天井を触らずに済むので工事費を抑えられる



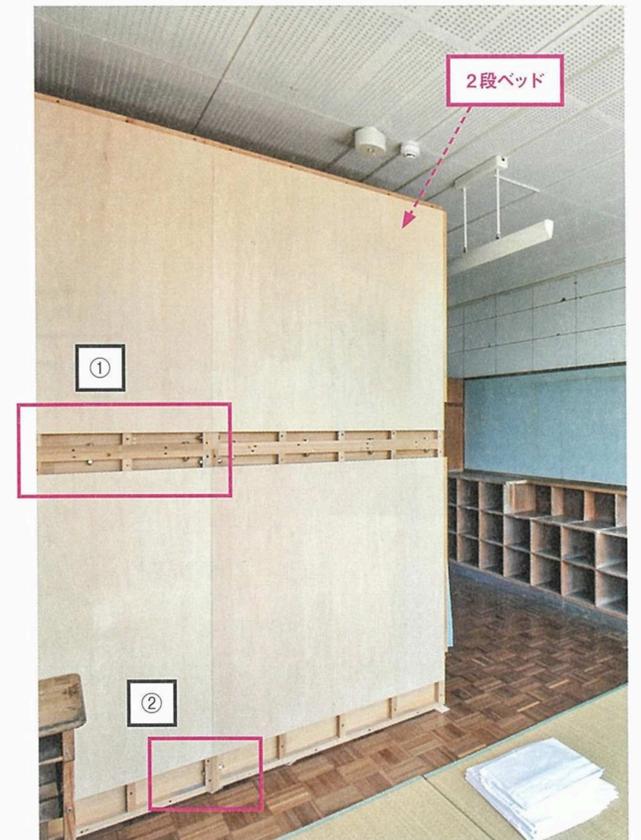
ドミトリータイプの客室。ユニット化した2段ベッドを設置している



上下の連結部の納まり。ずれないようにボルトで連結



脚部の納まり。前後の連結部の下部にスペースを噛ましている



ベッドの上下・前後で別々のユニットになっており、ボルトで連結して一体化する

Renovation for Plan, design, the construction spot

Renovation for Plan, design, the construction spot